

7 急性心筋梗塞患者の病院到着から再灌流までの時間が90分以内の割合

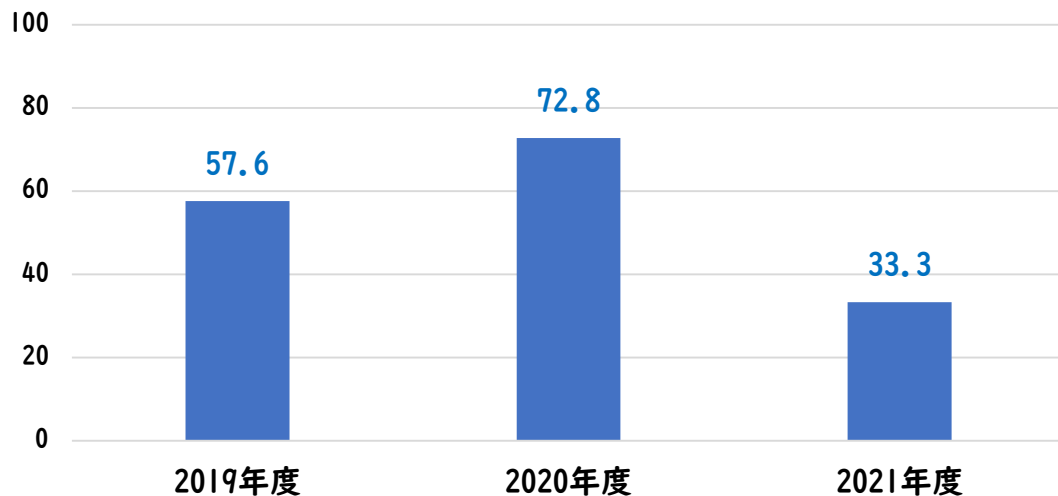
循環器内科

◆解説◆

心筋は再生能力がないため、急性心筋梗塞を起こした場合には、閉塞した冠動脈をできるだけ早期に再開通させることが望ましいです。日本循環器学会ガイドラインでは、急性心筋梗塞を発症後にPCI治療を行う場合、最初の医療従事者の接触から少なくとも90分以内に初回バルーン拡張を行うことが目標とされています。患者さんの病態を考えながら急性心筋梗塞を発症した場合は速やかな再灌流を行うことで心筋のダメージを少なくできるため、ガイドラインで推奨される90分以内の再灌流を目標としました。

◆当院の実績◆

(%) 90分以内に再灌流に成功した患者さんの割合(%)



◆定義◆

当院に搬送された急性心筋梗塞の患者数のうち、病院到着から再灌流までの時間が90分以内の患者数の割合

◆自己点検評価◆

心筋梗塞の患者さんが来院から再灌流療法を受けるまでには以下のような様々なプロセスがあります。

- ①診断
- ②循環器医師への連絡と医師の到着
- ③カテーテル検査の準備(患者・家族への説明と同意、検査の準備)
- ④カテーテル室への移動
- ⑤穿刺やガイドワイヤーを病変部に届けるまでの時間など

90分以内に再灌流療法が施行された患者さんの割合が50%以上という指標が急性心筋梗塞の治療の質の向上として挙げられています。上記のうち診断までの時間短縮が鍵であると考えています。当院の3年間の平均達成率は55%です。再灌流までに時間を要している理由として重症心筋梗塞が多く、ECMOやインペラなどの補助循環装置を留置しPCI治療を行う症例が増えていたことが考えられます。